

### 【牛相撲の歴史】

牛相撲は江戸時代頃から、1988年までお盆や月見など伝統的な行事として、特に中之郷で行われていた。当時の八丈島では、各家庭に牛が飼われていて島民は牛に角突きをさせ、遊んでいた。終戦後は、動物虐待とみなされ止められて今では一切行われなくなった。その頃、娯楽の少ない八丈島の人々にとっての楽しみだった。最初は娯楽として行われていたが、観光化されて、島を訪れる人たちへ「見せる闘牛ショー」に変わっていった。観光客を相手に筋肉があり、大きく立派な牛たちの晴れやかな舞台だった。東と西の二手に分かれ、「ひが〜し〜〇〇、に〜し〜〇〇」と紹介され、牛相撲が始まる。

牛が本気で戦うと、相手の腹をつき腹が破けあばらが見えて血が大量に出てくる。だから、牛は角付きをして自分を守ろうとする。相手が倒れるまで戦わせていたそう。大きな牛が角を突き合わせるのなかなか迫力がある。

大相撲と同じように、横綱の土俵入りのものも行われていた。

### 【起源】

起源については明確なものは存在せず、自然発生的なものから、神事として始まったものとされている。史料上では、後白河法皇が角合わせを観覧したとの記録があり、『鳥獣人物戯画』にも闘牛が描かれている。隠岐島の闘牛は承久の乱で配流されたあと、鳥羽法皇を慰めるために始められたとされている。

### 【続けた勇者】

動物虐待とみなされ行われなくなった牛相撲だが、「牛相撲は、牛のスポーツだ!」と言って、続ける人もいた。だから、動物愛護協会から訴えられたり、警察に呼び出されて、始末書を5、6回書かされたりしていたそう。

### 【始まった民宿】

ある地域では牛相撲を観覧後、会場の横の寿司屋で酒を飲むというサービスを行っていた。それは島民にとっても、観光客にとっても人気があった。

寿司屋であるのにも関わらず、多くのお客様が酔いつぶれ寝泊りしてしまう事があった。その寝泊りしてしまうお客様が増えることから始まった民宿もある。

考え方によっては、寝泊りしていたお客様のおかげでその民宿があるといっても良いかもしれない。



1990年4月頃  
「監上」  
学生時代に学友を連れて博島  
した時の写真。  
高山幸福氏提供